

特別史跡加曽利貝塚グランドデザインの策定について

千葉市では、貝塚として初めて国の特別史跡に指定された加曽利貝塚と、その周辺地域における一体的な整備活用の将来像を描いた「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」を策定しましたので、報告します。

1 策定の趣旨

加曽利貝塚の特別史跡指定は、ゴールではなくこれからも多くの人々に愛され続ける史跡を目指す新たなスタートとして位置付けている。本グランドデザインは、加曽利貝塚に関わる人々が同じ目標に向かって進むための羅針盤として、将来の目指すべき姿を描いたものです。

2 構成

本グランドデザインの構成は、全体を2部構成とし、第1部は、博物館の移転を踏まえた史跡内外の魅力向上を目的とした中・長期的整備（2026年度まで）を示す「グランドデザイン整備構想」、第2部は、既存施設の活用を前提に来訪者の利便性向上を目的とした短期的整備（2020年度まで）を示す「史跡整備基本計画」としています。

3 策定日

平成31年2月8日（金）

4 グランドデザインの概要

(1) 第1部 特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン整備構想

ア 加曽利貝塚の特性を踏まえたうえで、整備対象エリアを設定。

- ・コアエリア 加曽利貝塚及び縄文の森特別緑地保全地区
- ・周辺エリア コアエリアの周辺地域

イ 目指すべき将来像を3つの役割に区分し、集客目標を設定。

＜目指すべき将来像＞

- ・特別史跡としての役割（我が国文化の象徴たる遺跡として、新たな価値を生み出す史跡等）
- ・緑地、公園としての役割（歴史と自然を活かしたレクリエーションを創出する場所等）
- ・博物館としての役割（幅広い調査研究を推進し、縄文文化と貝塚の性格を究明していく拠点等）

＜集客目標＞

- ・博物館入館者の集客目標数 年間約15万人
- ・公園利用者の集客目標数 年間約55万人

ウ 目指すべき将来像の実現に向け、7つのゾーンの特徴に応じた整備方針を設定。

- ・遺構保存ゾーン
加曽利貝塚の本質的価値を保存継承し、学習・体験の主体となるゾーン
- ・公開活用ゾーン
縄文時代の生活を再現した公開展示を行うゾーン
- ・自然保護ゾーン、縄文植生ゾーン
縄文時代の生活に利用された植生を育成・活用するゾーン
- ・新博物館ゾーン
加曽利貝塚や縄文時代が学べる新たな博物館を整備するゾーン
- ・縄文の森ゾーン、水辺公園ゾーン
縄文の森の緑や水辺を活かした整備を行い、縄文を満喫できるゾーン

(2) 第2部 特別史跡加曽利貝塚史跡整備基本計画

ア 全体的な史跡整備の基本方針を示し、その中で早期に着手すべき整備事業をグランドデザインの先行整備と位置付け、短期的整備として抽出。

イ 史跡整備の基本方針を提示し、短期的整備として実施する内容について、個別計画

を示した。

- ・遺構の整備

本質的価値を構成する要素を適切に保存し、加曽利貝塚の特色を顕在化するための整備を図る。

- ・修景

縄文時代の景観と人々の暮らしが体感できるとともに、安全・安心に配慮した整備を図る。

- ・施設整備

遺構等の保存と史跡の景観に配慮しながら、縄文文化の体験や利便性向上に向けた施設の整備を図る。

5 完成予想図



完成予想図（北東側から見た全体図）

6 今後の予定

本ランドデザインで示した目指すべき将来像の実現に向け、市民や企業・団体等と連携し、加曽利貝塚の価値を確実に守り伝えていくとともに、周辺地域との一体的な整備活用による新たな魅力の創出を目指していきます。

平成31年度の取組みとしては、来場者の利便性向上を図るため、園路やベンチなど環境整備工事の実施設計のほか、新博物館の整備基本計画など博物館の移転に向けた事業に着手する予定です。